

ラジオ放送
＜平成30年7月～9月放送分＞

ON AIR



金光教の声

No.424

もくじ ~ contents

<信心あればこそ>

☞ 信心をして生き生き生活されている方のお話

- 頑張りたいのになんか頑張れない
香川県・牟礼教会 亀井 徹 *page 1*
- 音が聞こえる
兵庫県・村岡教会 尾崎保子 *page 6*
- 命のピンチを通して
兵庫県・柏原教会 青木清野 *page 12*

<平和>

☞ 戦争体験者のお話

- 青春を戦争と共に生き抜いて
大阪府・難波教会 生島 誉 *page 16*

<ラジオドラマ> 「ミカンちゃんのラジオ人生相談」

☞ 「天地の道理で現代社会を見る」をテーマにしたラジオドラマ

- 第1回 意外な抜擢 *page 21*
- 第2回 意地悪な先輩 *page 27*
- 第3回 秘密のお金 *page 33*
- 第4回 悪い虫 *page 38*
- 第5回 わがままな孫 *page 44*
- 第6回 新米校長の憂うつ *page 50*
- 第7回 夫の浮気 *page 56*
- 第8回 僕のお父さんとお母さん *page 62*
- 最終回 誰にでもできること *page 67*

《信心あればこそ》

「頑張りたいのに頑張れない」

香川県・牟礼教会 亀井 徹

皆さんは金光教という宗教をご存じですか。

私は金光教のご信心をさせていただくようになり、15年目になります。

金光教の教会にお参りするようになった切っ掛けは、書店で目にした金光教の教祖が記した書物『金光大神覚』おぼえという本を読んだことです。

ご信心させていただく前の私は、仕事がうまくいっていませんでした。当時の私は、建設関係の仕事に就いて10年目、中堅どころとして仕

事を任される立場にあり、ある程度、技量も身に付け、自信を持って仕事に取り組んでいたのです。ところが、その頃から、会議や打ち合わせをしても、人に大事な要件が伝わらないことが度々起こり、ある大きな仕事で大失敗をしてしまったのです。

そんな出来事が何度か続いて、とうとう体調を崩してしまいました。病院で「うつ」と診断され、それから数年間は、薬を飲みながら何とか仕事に行くのが精いっぱいの生活でした。

頑張りたいのに頑張れない、気力が湧いてこない、自分でどうすることもできない状態が続き、どうしたら病気が良くなるだろうか、仕事がかまくいくようになるにはどうしたら良いか
と思ひ悩み、答えを求めて様々な書物を手に取

って読んでみたのです。そうして巡り合わせて
いただいたのが、金光教祖の書物『金光大神覚』
だったのです。

そこには、江戸時代末期から明治に至る時代
に生きた教祖の自伝的な内容が書かれていまし
た。幼い頃に養子に行かれ、家業の農業に精を
出し、熱心に神仏を敬う信心をしながらも、子
どもの死や飼う牛の死に次々と遭われ、ついに
はご自身までもが生死に関わる病に掛かりまし
た。

そんな中でも神仏に対して実意な態度の信心
を貫かれ、ついに金光教の神様、天地金乃神様
と出合われるまでの心の姿がそこに書かれてお
りました。

全て読み終えた後、それまでの私の生き方に

無かったものは、この金光教祖のような「実意
の心」だと気付かされたのです。

どこかにお参りする教会がないか探したとこ
ろ、住まいの近くに牟礼教会があり、そこに訪
ねて行きました。教会の玄関のチャイムを鳴ら
すと奥様が出て来られ、私が、「お参りしたい
のですが」と言うと、「ここは金光教の教会で
すよ。良ろしければどうぞ」と、中に案内して
くださいました。

教会の中で出迎えてくださったのは、おじい
さんの先生でした。そこで私は金光教のお参り
の仕方を教わり、悩み事などを話しました。

先生は私の話を丁寧に聞いてくださり、病気
や悩み事が解消するよう神様をお願いをしてく
ださいました。

初めてお参りした私に親切に接していただき、
て家に帰った後、その日は何とも言えない安心
感に包まれて休むことができました。

悩み事が続いていた私にとって、何年ぶりか
の安心を覚えたのです。それから週ごとに参拝
するようになり、教会の先生に丁寧にご信心を
教えていただきました。

教会の先生は私に、物を大切にすることと、
食べ物のありがたさをよくお話してくださいま
した。先生はよく私に、「日に日に生きるが信
心なり」という教祖の教えを語ってくださいま
した。

聞き始めは、「一日一日生きるなんて当たり
前ではないか。どうしてそんなことを繰り返し
言うのだろうか」と疑問に思いましたが、お参

りを続けて先生のお話を聞くうちに、「そうい
えば自分は、物を大事にせず、使い捨てをし、
食事は偏っていて不規則、将来はどうなるだろ
うかと毎日心配ばかりしていて自分を損なうよ
うな生活をしていた。そうではなくて、自分の
身の回りにある物を大切にし、その日その日、
お世話になった方々に感謝していく生き方をす
るのが、神様が人に願われている生き方であり、
人が幸せになつていく道ではないか」と気付か
されていったのです。

先生のお話は、教祖の教えをそのまま同じよ
うに語られておりました。本に書いてある通り
なので私も知っています。それが、先生がお話
しくださると、はつきりと実感がこもり、生き
た言葉となつて伝わってきて、何度も何度も腹

にこたえました。

こうしてご信心をさせていただいて、神様のおかげを頂き、生活態度を改めていきました。

食事は3食、規則正しくしっかり取り、人との接し方、仕事の取り組み方を感謝の気持ちを持って行うように心掛けたのです。

そうして生活していくと、仕事のやりとりで行き違いが少なくなり、悩みが解消していき、健康も取り戻していきました。

物事が順調に進むようになり、信心はありがたいなあと思うようになって数年経った頃、お見合いをし、結婚をして、家庭を持ちました。

金光教には女性を大切にする教えがたくさんあります。そのおかげで妻に優しく接することができ、夫婦仲良く生活をさせていただいてお

ります。

信心する前は、神様というのはどのような方なのか想像も付かなかったのですが、先生から、「かわいいと思う心が神心じゃ。この道はよろこびから開けたのじゃから、よろこびではしくじらせはせぬ」と、優しい笑顔で教えてくださいました。私はその先生の表情に、何とも言えない明るさと、信心が幸せをもたらすことへの揺るぎない信頼の思いを感じたのです。その時、神様は優しいお方なのだ、心に染み込みました。

金光教は、「話を聞いて助かる道である」と言われております。教会でご信心を教えていただいて私に幸せな人生が開けたように、一人でも多くの方に神様の優しいお心に触れていただ

きたいと願っています。



《信心あればこそ》

「音が聞こえる」

兵庫県・村岡教会 尾崎保子

ナレーション

兵庫県の北部にある香美町小代。美しい滝があり、棚田が広がります。その小代にお住まいの尾崎保子さん、69歳。尾崎さんの家は、おじいさんの代から金光教を信心しています。

尾崎

とにかく毎日日本当に柏手を打って、「ありがとうございます」「ございます」。お風呂に入っても、「ありがとうございます」「ございます」。ご飯を食べても、「ありがとうございます」「ございます」というふうには、もう常に、

「ありがとうございます、ありがとうございます」と、もう祖父母と両親は必ずそういうことをしていたので…。

毎朝、祖父母や両親がご神前に向かっているのを見て育ちました。

ナレーション

そのような環境で育ったせいなのか、尾崎さんも自然に神様に手を合わせるようになっていました。

今から30年以上前、尾崎さんが30代の頃です。ある日、突然、目が見えなくなりました。

尾崎

突然…、もう突然ほんまに失明して、いきな

り見えなくなっただんですけど、もう一生治らないかも分からないですよ、って言われてね。

何か妙に体が少ししんどいなと思っていましたけどね。それで、涙も出ないし、目が真っ赤になってきて、「結膜炎かなあ」って言うってたんやけど。

ナレーシヨン

病院へ行くと、「ぶどう膜炎」と診断されました。お医者さんからは、「いつ治るか分からない、一生治らないかもしれない」と言われました。

尾崎

目の玉に注射するんですけど、もう死ぬほど

痛いんですよ。「これ以外に治療はないんですよか」と聞いたたら、「ないです」と言われて。もう本当にね、目に刺すから、自分には見えないんやけど、刺したら血が出ますよね。目から血の涙が出るんですけど。主人に聞いたら、「恐ろしかった」って言っていましたけどね。

夜真っ暗なのにね、電気をつけるとね、何か神経に障るんですね。真っ暗やから分からないはずなんやけど、「今、電気をつけた」「消した」というのが、すごく分かるんですね。

とにかく光をシャットアウトしないと、神経に障るものですからね。バスタオルかぶって、その上から布団を掛けて、それでも神経に障りましたね。

ナレーシヨン

もう目が見えないかもしれない。普通なら平常心ではいられないところですが、尾崎さんを力強く支えてくれたのは信心でした。

尾崎

部屋でゆっくり休ませていただいて、目は見えないうえに、横にならせていただいて、ずっと音を聞いていると、「音って、こんな素晴らしいもんやったんやな」というのが、改めて、感じる事ができたんですね。

何て言うかな、音…、目が見える時は、そんな耳を傾けるなんていうことはなかったんですけど、主人の足音、お客さんの足音、鳥の声、そういうものが聞こえてくるのがね、幸せやなあ、と、すごく感じたんですね。

もう目が見えなくなっちゃって言われても、本当に安らかに、「うわ、どうしようどうしよう」とか思う気持ちは意外となかったですね。

それで、台の上に神様をお祭りしてあったんですが、「金光様、今日もありがたいですね」とか、独り言を言ったりしてました。慌てふためかないで、穏やかに横になれて、いつ目が見えるとも分からないのに、本当に穏やかな気持ちでいられたっていうのはやっぱり信心のおかげやったと思うんですね。

神様を信心してなかったら、多分、泣き叫んだり、わめいたりしてたと思うんですけど、それをすることなく本当に穏やかに音を楽しむことができたんですね。でも、本当にそれが、40日で見えるようになったんですよ。病院の先生

が、「もうこんな奇跡的なことやで」と言われて、「あ、そうなんですか」って…。

まあ当分の間はサングラスを掛けてたんですけど、そのうちに徐々に徐々に見えるようになって、それでももう普通通りの生活ができるようになってたんです。

ナレーション

尾崎さんは目が見えなくなった時のことについて、後々になって初めて知ったことがあります。

尾崎

父が亡くなってから、遺品を整理していたら、ぎっしりと私の目のことを「祈念したことが書

いてあったのを見て、もう本当に感無量になりました。

毎日ご祈念してくれてたんやろうね。そんな毎日毎日、神様にすがってね、そんな祈ってくれているということは全然分からなかったですね。だけど、亡くなってもう本当に何年かして、父の書類を整理していて、「ああ、こんなことがあったんやな」というのを見付けてね。それでまた胸が熱くなりましたわ。

自分では知らないうちでも、周りの人がそうやって一生懸命お願いしてくださっていたんやなと思ったら、やっぱり自分も今度は困ってる人のことを助けていかなあかんああっていうのは思わせていただきましたね。

ナレーション

改めてもう一度、尾崎さんに「信心していい良かったと思うことは何ですか」と尋ねてみました。

尾崎

信心して良かったなあと思うことはね、神様が常に側にいてくださるっていうことが一番、やっぱり生活していく上で強みですし、幸せだなと思いますね。

だから、慌てるでなく、本当に穏やかな気持ちで、物事を見ることができたり、自分にそういうことが降り掛かっても、本当におかげやなと、素直に思える自分がね、やっぱり、そこは信心のおかげやなあと思いますね。

もう本当に、その都度その都度助けていただ

いてるんで、心が穏やかで、元気でいられるっていうのは、もう最高のぜいたくかなと思いますね、やっぱり。うん。幸せです。そういうふうに思えるのが。

ナレーション

尾崎さんは、今の自分たちの幸せは、祖父母や両親が残してくれた信心のおかげだと言います。

その信心をしっかり受け継いでいきたい。自分子どもや孫たちが幸せになるために、神様と一緒に今を精いっぱい生きていきたい。そう願う尾崎さんでした。



《信心あればこそ》

「命のピンチを通して」

兵庫県・柏原教会 青木清野

私は夫と結婚して27年になります。3男1女の4人の子どもを授かり、明るく賑やかに過ごしてきました。

我が家では、朝は神様に、今日も命を頂いていることのお礼をし、家族や友達と元気で仲良く過ごせるようにと願います。そして夜には、一日元気で過ごせたことや、命を頂いたお礼を言って終えるのが恒例となっています。

そんな中でも、子どもたちが成長する過程で、それぞれに「命のピンチ」とも言えるような大

きな出来事がありました。

次男が1歳の時です。朝起きて、私が布団を片付けている間、次男は兄と2人で、台の上では飛び降りて、と元気に楽しく遊んでいました。私は、その台の上に置いてある、おもちゃのコインが目に入りましたが、特に気にせず片付けを続けていました。

すると、次男が急に咳込み、よだれを垂らして泣き出したのです。一瞬、「どうしたのだろう？」と思いましたが、とつさにコインのことを思い出しました。台を見ると、コインはどこにも見当たりません。「まさか、飲んでしまったのではないか……いや、飲んだに違いない！」

私はすぐ背中を叩きましたが何も出てきません。「コインに気付いた時に手の届かないところ

に片付ければ良かった。神様、私の不注意です。どうぞ助けてください！」とお願ひし、病院に行きました。

レントゲンを撮ってもらうと、やはり、コインを飲み込んでいました。お医者さんの説明では、「コインが縦向きに入っていたので气道が確保できています。これが横を向いていたら、气道を塞ぎ、窒息していましたよ」とのことでした。

その後、内視鏡を使って無事に取り出してもらいましたが、処置をしてもらっている間、「あの時、すぐ、コインを片付ければ良かった」と自責の念に駆られました。でも、「コインがある事に気付いたからこそ、『飲み込んだ！』と直感し病院に行けたのだ。飲み込んで大変な状況の

中にも、ちゃんと呼吸ができています。ああ助かった。神様、ありがとうございます！」という気持ちで湧いてきて、命があることに御礼が言えました。

それから数年後、今度は長男が小学生の時に起きた出来事です。

我が家のそばには、小学校と幼稚園があります。校庭に加え、その敷地内の山にも遊具があり、学校から帰った子どもたちの遊び場となっています。その日も長男は、いつものように下校するとすぐ、友達と3人で遊びに行きました。私が後から下の子たちを連れて遊びに行くと、長男たちは上級生も加わって5、6人で校庭で遊んでいました。私の姿を見付けると、みんなで駆け寄ってきて、何やら言いたそうにしてい

ます。「どうしたの？」と聞くと、「実は…」と、事の次第を話し始めました。

最初、3人は山で木に縄跳びの縄の両端を括り付け、基地作りをして遊んでいました。長男がふざけてその縄を首に掛けた途端、斜面で足が滑り、首吊り状態になってしまったのです。友達2人は、何とか助けようと頑張るのですが、長男の全体重が掛かって、縄は締まっていく一方。

焦っていたその時、校庭に、いつもよく遊んでいる、顔馴染みの上級生たちが遊びに来ました。それに気付いた友達が、「僕が支えておきましょう、早く呼びに行つて」と頼み、今度は上級生たちと協力して、やっと縄から外すことができましたのだそうです。

その時の長男は、もがき苦しみ、顔中がうつ血して、しばらく意識を失っていたそうです。その様子を見たみんなは、「とても怖かった」と話してくれました。

長男を見ると、既にケロツとして笑っているのですが、顔のうつ血はもちろん、目はひどく充血し、九死に一生を得た様子が見てとれませんでした。みんなに怖い思いをさせたことを謝り、命を助けてくれたことにお礼を言いました。

「もし1人で遊んでいたら…いや、3人だけでも助かつてはいなかっただろう」と思うと、知らない上級生ではなく、顔馴染みの上級生が遊びに来たことは「偶然の出来事」と済ませることはできません。神様のお働きを頂いたので確信でき、26歳になった今も、その日は長男

の第2の誕生日として、命のお礼を忘れないようにしています。

他にも、子育て中には命に関わるような大きな出来事がいくつもあり、不安や心配の中で、どう向き合っていけば、命も、気持ちも助かるのだろうか見つめてきました。

こうした、子どもの「命のピンチ」を通して気付かされたことは、こんなことでもない、子どもの命に本気でお礼が言えない私だったということ。そして、私自身の命も、我が子の命と同じように、両親が願い、祈って育んでくれた命であるのだということでした。

今、成人した子どもたちにも、折に触れ、当時の話をします。私や夫の父も、自身が子どもの頃、命に関わるようなけがや病気をした、と

繰り返し話していましたが、それはきつと、その事を通して、「自分の命とは、願われ、祈られ、守られてきた奇跡の命なんだ」ということを身をもって感じ、現してくれていたのだと思います。

人が作ろうとして作れるものではない命。生かされて生きている私たち。それを知ると、神様のお働きを感じる生き方となり、あらゆる物や事柄にお礼が言える心豊かな生き方ができると思います。今日も命にお礼が言えますように。

《平和》

「青春を戦争と共に生き抜いて」

大阪府・難波教会 生島 誉

ナレーシヨン

日本は、今年で戦後73年を迎えます。

今日は、戦争の真ただ中で青春時代を過ごされた女性、兵庫県にお住まいの生島誉さんに、ご自宅でお話をお聞きしました。

生島

戦前と言うてええか、大東亜戦争の前に、満州事変みたいななんあったんですもの。ですから私らも、割合と平和な時代が少なくて、戦争し

てるのが当たり前みたいなものでした。それでも気楽でしたよ。自分の周りでは何にも被害がないんですからね。大東亜戦争でも、影響というたらほんとのもう敗戦の手前ぐらいかですよってね。

ナレーシヨン

今の日本とは違い、「戦争が日常」という中で育った生島さんは、大正15年生まれの92歳。大阪の堺市で、8人兄弟の6番目に生まれま

した。そして7歳の時、家族は大阪市内に移り住みました。賑やかに感じた大阪の街の中を、お姉さんたちと仲良く登校しました。

生島

1年生で学校へ行くいうたかって、1駅ぐら
い歩いて行きましたよ。40分から50分掛かった
と思いますよ。

もう時間ないと言うたら走ったりね。けど、
後ろから人が来たら怖くなったり。外歩いてて
も、余分なこと言うたりしたら、憲兵さんに何
か言われますからね。

ナレーシヨン

楽しい生活の中にも、どこか緊張感があつた
ことを記憶しています。

そして昭和16年、生島さんが15歳の時、日本
はハワイの真珠湾を攻撃します。びっくりする
ものの、生活に大きな変化は感じられませんで

した。女学生という多感な時期、今の時代と同
じように、同級生たちとは、異性の話にもなり、
憧れもありました。

生島

私ら、若い男の人と話すということがないん
です。そやから兵隊さんが負傷しはって、病院
入ってはるでしょ。学校から病院に奉仕にちよ
っと行ったりしましたね。

ナレーシヨン

大人たちが戦う中、学生時代に、それぞれに
ささやかながらも楽しめる時期があつたと振り
返ります。

女学校を卒業した生島さんは、難波にあつた

印刷会社でタイプライターの訓練を受け、その後そこで働くことになりました。

しかし、戦況は徐々に悪化していきます。そして大阪でも、空襲が始まりました。

生島

防空壕を掘りましたわ。庭の端の方へこしらえてました。壕の上いうたら畳1枚置いてるだけです。

空襲の様子なんて分かりません。もう怖くて、防空壕に入ったままで。その時によりますが、いてるもんは皆入るねんから、まあ狭いというても、やっぱり5人ぐらいは入れるぐらいの大きさは掘ってるんですけどね。

初め、警戒警報が出るんです。それが今度、

空襲警報になるんです。警戒警報が鳴って空襲になったらもう、半時間ぐらいいかな、1時間も入ってなかったと思いますけどね。けどそれが何回もありました。段々と負けてくると、夜中でもあるしね。もうみんな黙って。音聞くのが怖いからねえ。

ナレーション

昭和20年3月の大阪大空襲で、生島さんの家の周りも空襲を受けました。そして、勤めていた会社も全て焼けてしまいました。

19歳になっていた生島さんはその後、陸軍へ女子挺身隊として動員されます。奈良県の王寺町での寮生活が始まり、主に事務作業の任務に当たります。

しかし、この町でも、終戦間近の7月に空襲に見舞われます。その時、事務所から逃げ遅れた生島さんをめがけ、一機の戦闘機が急降下してきました。操縦する兵士の姿が忘れられませんか。

生島

お昼過ぎでしたかねえ。警戒警報で立って避難するんですけど。気がついたらもう、誰もいないので、自分一人ですねん。それでくつと隠れてね、事務所の中にあつた井戸端のぐるりに。で、ぱっと見たんですね。トタンの屋根なんですけども、それが外れて、ちょうど空いてました。何しろ飛行機の音が、ものすごい大きくなってきたから、ぴゅっと見たら、プロペラを

回した飛行機が急降下してきましたからね。その時に、姿が見えました。まあ、あれだけは忘れられんねえ。

もう、「なるようにしかならないわ」と思うて、これこそ神さんが見ておられるんやったら、もう亡くなってもええわと思うて、「金光様」と言うてました。

ナレーション

金光教の信心を両親から受け継いでいた生島さんは、神様に一心に祈り、幸いにも機銃掃射を受けずに済みました。

その1カ月後に終戦となり、ようやく安堵あんどすることができました。

その後、結婚し、3人の娘が生まれました。

平和を実感するのは、少し時間が経ってからでした。

生島

今日からもう空襲がないというのが一番うれしかったんを思い出します。空襲のことを考えずにね、日々一日一日がこう、穏やかに過ごしていけるということがありがたいなあと思いますわ。「金光様ありがとうございます」がもう…本当に…。

運動会とか学芸会とか、市がやるような大きな行事なんかがあると、「ああ、平和やなあ」と思いますね。

ナレーシヨン

今は娘さんの家族と暮らし、多くのお孫さんたちにも囲まれています。

しかし、時が経った今日も、毎日の祈りを欠かしません。今も世界の各地で起こるテロや紛争のニュースを見ては、世界の平和を祈らずにはおれない生島さんです。



《ラジオドラマ》

ミカンちゃんのラジオオ人生相談

脚本 菊村 禮

第1回

「意外な抜擢」

登場人物

●青柳文治 (88歳) 静岡県のミカン

農家の隠居 愛称ミカンちゃん

●原田ケイコ (33歳) とあるラジオ局の

アナウンサー

●佐々木 (45歳) とあるラジオ局の

プロデューサー ケイコの上司

ケイコ 今日も朝の5時から始まりました

「夜明けのコーヒーごいっしょに」。

そろそろお別れの時間となります。

お正月も終わり、今日からお仕事と

いう方も。お寒いですからお気を付

けてお出掛けください。ではまた明

日！

原田ケイコでした！ バイバイ！

(ドアあく)

佐々木 (入る) やあ、お疲れさーん！

ケイコ ああ、おなががすいたー！

佐々木 ハイ、サンドイッチ。

ケイコ あっ、いつもどうもすみません。(食

べる)おいしい。…決まったんですか？

佐々木 …え？

ケイコ 新しい回答者ですよ、「人生相談」

のコーナーの。

佐々木 ウン。決まった。

ケイコ どなた？

佐々木 ミカンちゃん。

ケイコ えっ？

佐々木 だからミカンちゃんだ。イヤ、実は

ね、せんだつてのこと…。

写真だ。休みの日にはよく富士山を

撮りに行く。伊豆半島の丘の上から

富士山を撮影中に…。

(カメラのシャッター音)

佐々木 ああ、やっぱり富士山は素晴らしい。

どこから撮っても絵になるなあ…。

(カメラのシャッター音)

佐々木 おっ、今度はこの枝越しにもう1

枚…ああっ！

(鳥の音)

佐々木 君も知っているだろう。僕の趣味は

(足をすべらせる音、ザザツと)

佐々木　　ワツ。ワワワーツ。

(落下の悲鳴)

(滑り落ちる音、止まる)

文　治　　た、大変だー！　山から人が落っこ

ちてきたー。だ、大丈夫かー？　し、

しっかりー！

佐々木　　だ、大丈夫です。アイタタタ…。腰

が。あつ、写真機！　僕の大切なカ

メラ！

文　治　　カメラならばわしが持つとる。

ホラ！…あ、ズボンが泥だらけじゃ

ないか…

佐々木

さ、わしの肩につかまって。ソレ、ドッコラシヨ！（抱き起こす）さ、家へ行こう！

…え、お宅へ？

文　治　　風呂が沸いとる。腰を打った時はあ

ったまるに限る。さあ！

佐々木

…ハ、ハア…

佐々木　　それから家へ連れて行かれ、入れて

もらった風呂がミカンの風呂。

ミ、ミカンのお風呂？

佐々木

太陽に干したミカンの皮が湯舟にたくさん浮かんでいる。あつたまつて

ねエ。一遍に痛いのが治つちまつた。

ケイコ

ミカンのお風呂に入れてもらったっ

ただで、出演の契約を結んできち
やっただんですか？

呆れた。「人生相談」のコーナーは、

番組の目玉なんですよ。今までは有
名なソーシャルワーカーとか精神科
医の先生とか、人生相談の達人を選
んで頼んでたじゃないですか！

素性ははっきりしているんだ。静岡
県の代々続くミカン農家のご隠居
で。

ケイコ
ご隠居！

ミカンちゃんて、おいくつなんです
か？

佐々木
(ズバリと) 御年88歳。

ケイコ
は、88歳！　そ、そんなお年寄りに

佐々木

人生相談を任せちゃうんですか？

本当の名前は青柳文治あおやぎもんじさんといって

…。

ケイコ
…88歳…。

僕は彼の一言で採用に踏み切った。

ケイコ
一言？

いやあね、初対面の私にこんなに親
切にしてくださいって…ってその時言
ったら…。

佐々木

文治
(エコー) わしゃあ、人助けが趣味

で。う(笑う)。

ケイコ
…人助けが、趣味…？

佐々木
海と太陽と空と、大地とミカン。甘

酸っぱい初恋の味のようなミカン

を、生涯作り続けながら、人を助け
て生きてきた人生。これまでに人助
けが趣味って言い切った人がいた
か？ 人生相談を頼んだ人たちの中
に一人でもいたか？

ケイコ あたしは反対。誰か他の人を探して…。

(ドア開く)

文 治 …おはよう。ここで良いのかな。

佐々木 やあ！ いらつしやーい。お待ちし
てました、青柳さん。

ケイコ (小さな声で) あの人か？

佐々木 (小声で) そう。あの人かミカンち

ゃん。

文 治 お姉さん。さつきからずーっと苦虫

をかみ潰したような顔をしとるが。

生まれ付きです。

文 治 腹立つ心は健康に悪い。「ヤカンと

カンテキ」。

ケイコ えっ？

文 治 だから、ヤカンと…。

ケイコ ヤカンぐらい知ってます。「カン

テキ」って？

文 治 七輪のことじゃ。関西地方の方言で

な、腹が立った時はちょうどヤカン

を七輪の上に乗せたような案配なん

じゃ。そのまま置いておくと、いつ

まで経っても、ぐらぐら煮えくり返

つておる。おろせばいつの間にか鎮
まる。だから、相手から離れればよ
いのじゃ。

ケイコ
…なるほど…。では、サヨナラー！

(と、立ち去る)。

佐々木
ま、待てよ！ ケイコ君！

ケイコ
(自分に言い聞かすように) ミカン農

家のご隠居さん、88歳のミカンちゃ
んか…。

「ミカンちゃんの人生相談」。ウーン。
ひよっとして、悪くはないかも…。
ウフフ…。



「意地悪な先輩」

登場人物

●青柳文治 (88歳) 静岡県のミカン農

家の隠居 愛称ミカンちゃん

●ケイコ (33歳) とあるラジオ局の

アナウンサー

●桃山とも子 (23歳) ケーキ屋の店員

●栗田ミツ (35歳) ケーキ屋の店員

●男性店員 (20代)

ケイコ さあ、いよいよ今日から始まる新コ

ーナー「ミカンちゃんの人生相談」

の時間です。ミカンちゃん。おはよ

うございます。

ああ、おはよう。

文治
ケイコ 今日第1回目ということでミカン

ちゃんとは何者か、ご紹介を致した

いと思います。ミカンちゃん、ご本

名は？

私？ 青柳、青柳文治と言います。

お年は、おいくつなんですか？

年は88歳となります。

お仕事は？

ミカンを栽培して80年。ミカンを愛

してやまない年寄りです。

ご趣味は？

人助けを趣味としております。

ケイコ
文治

ケイコ はい、人助けが趣味という人生の達人、88歳のミカンちゃんがあなたの

悩みに答えてくれます。それでは、

「ミカンちゃんの人生相談」、早速始めましょう！

ケイコ あの、ご相談は？

桃山 実は私、短大を卒業した後、すぐに

お菓子作りの専門学校へ通って、今は、大きなケーキ屋へ入って丸1年が経ちます。

ケイコ ご相談は、どういうことなんですか？

桃山 実は…意地悪な先輩がいて困っています。昨日も…。

(電話ベル音)

ケイコ ハイ、こちら「ミカンちゃんの人生

相談」です。

(ケーキ屋店内のざわめき)

女性 (オズオズと)…モシモシ…。

ケイコ まずお名前とお年をどうぞ。

女性 …モモヤマ、です。

店員 いらっしやいませ。モンブランがお

2つと、ピーチパイがお1つですね。

ケイコ 桃山さん、ご年齢は？

桃山 23歳、です。

(別室。ケーキ作り)

桃山

(水音) あーあ、手がシビれてもう動きやしない。朝から卵を50個以上

も割らされた…。汚れたボールにお

皿、洗い物ばかりこんなにくさん

…もうウンザリ！ …ああつ！

栗田

言い訳はおやめなさい！ この仕

事、あなたには向いていないんじゃないの！

…

桃山

ええーッ、そ、そんな！

桃山

(切々と) 店へ入れれば、すぐにでも

ケーキを作らせてもらえらるとばかり

思っていたんです。それなのに道具

を洗わせられたり下準備ばかり。先

輩の栗田さんの意地悪な言い方にも

耐えられません。もう店を辞めよう

かと思つて。将来の夢は、ケーキ屋

さんなのに…。どうしたら良いのか

…。

なるほど…。ミカンちゃんに伺つて

(お皿が割れる)

栗田

桃山さん！ また割つたのね、お

皿！

桃山

ス、スミマセン。

栗田

あなた、この前もガラス瓶を割つた

ばかりじゃないの！

桃山

手、手がシビれてたもんで。

ケイコ

みましよう。ミカンちゃん！

文 治

誰も知らんのじゃ。ミカンの実は、

文 治

フォーム。

収穫した時には、あのおへソのどこ

ケイコ

ミカンちゃん、何か良いアドバイス

ろにまだ枝が残っておる。その枝の

を！

切り口は、鋭くがっついていてなあ…。

文 治

(唐突に) ミカンは、好きかな？

桃 山

えっ、とがっている？

桃山さん。

文 治

うむ。わずか2センチばかりの小さな

桃 山

…え？

枝なのじゃが…。それを、ミカン

文 治

ミカンは好きかと尋ねておる。

農家のわたたちが総出で切る。はさ

桃 山

…は、はい。大好きですけど…。

みを使ってな。そのまま出荷をし

文 治

その大好きなミカンは、どうやって

たら、ミカン同士が傷付け合うこと

食べる？

になつてしまうからなあ…。

桃 山

…むいて。皮をむいて。

桃 山

(ハツとなる) …ミカン同士が、傷

文 治

その皮をむく時に、手に傷が付くこ

付け合う…。

とがあるか？

文 治

そんなことになったら大変じゃよ。

桃 山

いえ、付きません。

だから、朝から晩まで、はさみで枝

をチョッキンチョッキン。手は痛む。

シビれる……。だが、誰も泣き言一つ

言わん。ミカンが可愛いから……。お

いしいおいしいと言うて食べてくれ

る大勢の人たちがいるということ

を、みんなよく知っておるから……。

物を作るといふのは、そういうこと

なんじゃよ。

桃山

……（息をのむ）……ケーキ……も？

文治

もちろん。人に喜んでもらえること

で、わたらの苦勞は報われる。鋭く

とがったミカンの枝、ミカンは自分

の手で取り除くことができる。だが、

人間は、それができる！

桃山

あたしの胸の中のギザギザの枝……自

文治

分で取り除くことができる……。

あの、何て言ったかな？ 君の先輩

……栗田さん、ちよいと言ひ方はキツ

イが、悪い人ではない。ケーキ作り

の仕事に燃えているんじゃない。お

客さんのことを真剣に考えておるに

違ひない。

桃山

……栗田さん……。

文治

分かつたようじゃな。じゃあ早く店

に出掛けなさい！

桃山

はい。ゴメンナサイ、栗田さん。（明

るく）ミカンちゃん！ 元氣出まし

た！ お皿も一生懸命に洗います。

うむ。卵割りもな！

桃山

ハイ！ ありがとうございます！

ケイコ

じゃ、行つてきまーす！

お気を付けて。春とはいつても、朝の風はまだまだ冷たいですから。

では、これで「ミカンちゃんの人生相談」を終わります。来週もまたお電話をお待ちしております。



「秘密のお金」

では、「ミカンちゃんの人生相談」を早速始めましょう。

登場人物

●青柳 文治 (88歳) 静岡県のミカン農

家の隠居 愛称ミカンちゃん

女性

もしもし。よろしくお願ひします。

●ケイコ (33歳) とあるラジオ局の

ケイコ

年を言ってください。

アナウンサー

女性

年齢は51歳。出来れば、「匿名」で。

●トク・メイコ (匿名) (51歳) 呉服店経

ケイコ

では匿名希望の「トク・メイコさん」ということで。ご相談は？

営者の妻

メイコ

はい。実は、私、近頃、夜寝ている

(電話のベル音)

と、隣で寝ている主人が刑事に…。

ケイコ ようやく春風、吹いてきましたねー。

文治
ケイコ

ケイジ？

メイコ 警察の刑事さんに思えちゃって。それで困ってご相談を。

文 治 言ってる意味がサッパリ分からん。

ケイコ メイコさん、もう少し具体的に…。

メイコ はい…実は、私、お金が貯まり過ぎて、それで心配になっちゃいました…。

文 治 金がないという相談ならば分かるのだが…。

メイコ 私の主人は、呉服屋を営んでおります。私は、経理の方を手伝っているのですが…。

文 治 共働きなんじゃな。それで？

メイコ 主人とは15も年齢が離れております。その上に子どもも主人の親戚か

ら養子に迎え入れたというような訳でして。

文 治 跡継ぎもいて何よりだ。

メイコ 何よりなものですか。老後のことを考えると、もう心配で、不安で…。

それで、ヘソクリ…毎日の売り上げの中から…。それが貯まり過ぎて。

主人にいつバレるかと思うと恐ろしくて夜も眠れなくなってしまうんです。

文 治 …フム。恐いのはご主人ではなくて（ズバリと）あなたの「心配心」なのだ。

メイコ …私の…私の「心配心」？

文 治

「心配心」は、恐ろしいぞ。いつの間にもやら仲間を増やして、体中をおむしばむ。最後は…。

メイコ

や、やめて！ やめてください！

ケイコ

ミカンちゃん。脅かさないで。困って電話を掛けてきているんですから。

文 治

あ、そうじゃった。(と、突然明るく) ミカン作りで何よりも大切なのは枝の剪定^{せんてい}じゃ。今年も潮風を浴びながら、わしは毎日のようにやった。

メイコ

ハ、ハア…。

文 治

枝が、モシヤモシヤ茂ると、木の真ん中が薄暗くなり、風通しが悪くなつて虫が湧く。おいしいミカンが作

れん。メイコさんの「心配心」が、

その虫なんじゃよ。

メイコ

…私の、「心配心」が…虫…。

文 治

嘘を付くのは、今すぐにやめなさい！

メイコ

そ、そんな！ 今更、主人に何と？

文 治

「嘘」というのは難しいもんでなあ。

その一つひとつを全部覚えてなけりやならん。ウツカリ本当のことを言おうものならば、「じゃあ前のは嘘だったのか？」ということにもなつてな。肩こりの元じゃ。

メイコ

はい。気ばかり使い、生きた心地も致しません。

文 治

考えてもみなされ。あんたのお父さ

んは、「天」。空を見上げればいつでもそこにあるあの「天」じゃ。そしてお母さんは、「大地」。

メイコ

(かみ締めるように)「天」がお父さんで：「大地」がお母さん？

文治

そうじゃ。そのご両親を持ち、神様から命を授かっているのがメイコさん、あんななんじゃよ。だから、その大切な体を、心を、嘘を付くことによつて痛み付けちゃならんと、わしはそう言うておるのじゃ。

メイコ

：天がお父さんで、大地がお母さん
：。神様から命を授かった私：。

文治

ミカンの木は、自分で虫を取り除く

ことができん。どんなに頑張つてみ

てもなあ：。だが、人間は、心の不

安を思い方一つで取り除くことがで

きる。心の剪定じゃよ。ご主人に正

直に話してな。謝つてな：。

何とか頑張つてみます。あ、ありが

とうございました！(電話切る)

メイコ

(ナレーション)それから数日後のこと。番組宛てに1通の封書が届きました。

メイコ

ミカンちゃんのお言葉、心に深く染み入りました。私は自分で自分の心の中に、「心配」という余計な枝を

茂らせて、身をむしばんでおりました。ミカンちゃんのお教えの通りに、早速、次の日、主人に通帳とハンコを出してわびましたところ、「2人で貯めた金だろう」と言って快く許してくれました。何とお礼を申し上げたらよろしいのか…。

「心の剪定」かあ…。難しいけれども、あたしも頑張ってみよう！

ケイコ



「悪い虫」

女性

(不安げ) …モシモシ。あの、ミカンちゃん…ですか？

ケイコ

ハイ。こちらは「ミカンちゃんの人
生相談」です。

●青柳文治

(88歳)

静岡県のミカン農

女性

あの…ミカンちゃんて、女性ですよ
ね。

ね。

●ケイコ

(33歳)

とあるラジオ局の

ケイコ

(プツと吹き出す) おじいちゃん。
88歳の…。

88歳の…。

●宮崎由加

(25歳)

医療品販売会社の

女性

えっ…(と、絶句) あの、恋愛の相
談なんですけれども。

談なんですけれども。

●彼氏

(35歳)

ライブハウス専属

文治

(割り込んで) 恋愛のことならばわ
しに任せておけ。ワッハッハッハッ

しに任せておけ。ワッハッハッハッ

…。

のミュージシャン

ケイコ では早速、「ミカンちゃんの人生相

女性 …宮崎：由加。25歳。

談」を始めましょう！

ケイコ ご相談の内容は？

文治 （唐突に）食つとるか？

由加 今から半年ばかり前のこと…私、医

女性 …えっ？

文治 飯は普通にのどを通つておるか？

いとるのだ。

女性 ヤケ食いしてます。

文治 じゃあ大したことはないな。わしな

…。そんな所へ行くのは初めてでした。飲み過ぎちゃって。帰りの道でフラフラして、倒れちゃったんです。

ど恋をする度に一貫目ずつ痩せ細つていったもんじゃ。

（夜の街音）

女性 ハア？

ケイコ ミカンちゃん。ご相談の内容を伺い

彼氏 どしたの？ 彼女。雨、降ってきた

ましようよ。まずお名前とお年をどうぞ。

よ。濡れたら風邪を引くよ。ほら、俺の肩につかまりな。ソレ、ヨッコ

ラシヨ!

文 治

幸せだったんじゃないあ…。

由 加
すつごく優しくしてくれて。タクシ
ーを拾って家まで送ってくれて。名
前を聞いたたら…。

由 加

はい。だけど、幸せな時はすぐに終
わって。彼、奥さんがいるのに店に
来る女の子たちと次々に…。

彼 氏
客席で俺のこと見てたじゃん。可愛
い子だなって思ってたよ。じゃあ、
また店で!

文 治

悪い男に引ッ掛かったもんじゃな
あ。

また店で!

由 加

でも彼の歌声を聴いていると、天に
舞い上がる気がするの。仕事の疲れ
も一気に吹き飛んで…。別れたくな
い、彼にそう言ったら…。

(タクシーのドア閉まる。車、発車)

由 加
あたし、ポーっとなっちゃって。そ
れからは、毎晩のように彼の歌と演
奏を聴きに店へ…。アツという間で
した。プライベートな関係になるの
は。

文 治

何と?

「金くれるなら会ってやってもいい
ぜ」

彼 氏

ぜ」

は。

文 治

(激高) バ、バカもーん! わしは
何のために50年以上もミカンを作っ

てきたと思う？ 金のため？ 違

う。食べてくれる人のため？ それ

もあるが、それ以上に、ミカンがた

だただ可愛いから。

…ミカンが、可愛い？

カッコを付けて言わせてもらや「無

償の愛」ってヤツじゃろうか。わし

はミカンに対して、何かをしてもら

いたいと思ひ世話をしたことはただ

の一度もないぞ。ただ、わしの農園

でピカピカの実を付けてくれること

がありがとうて…もったいのうて

…。それで、朝に晩に、「いい子、

いい子」をしてやっているだけだ。

「恋愛」というのも、そんなものな

んじやあないのかなあ…。

…あたし、あたし…。

何ですか？

ミカンちゃんの農園のミカンになり

たいです！（と泣き声になる）

お前さん、今までに…。

ハイ。愛された記憶がただの一度も

ないんです。小さな頃に父親が死ん

で、母が再婚先で産んだ妹ばかり

可愛がつて…（さらに激しく泣く）。

これからは、毎日が稽古じゃな。

…ケイコ？

愛する稽古じゃよ。相手は男でなく

ても構わない。この世にあるものは

全て神様がおつくりくだされたもの

由加
文治

文治
由加

由加
ケイコ

文治
由加
文治

なんじゃから。

由加 …… 神様…… が？

文治 そうじゃ。山も川も。鳥や馬や牛も

魚も。道端に咲いとる小さな花もじ

ゃ。可愛いなあと思つて…… 愛するん

じゃ！ 愛する稽古を今すぐに始め

るんじゃ！

由加 …… 愛する…… 稽古……。道端に咲いてい

る小さな花も。動物たちも。そして

周りのみんなを！

自分を愛する稽古もな。

…… 自分も？

文治 そうじゃ。神様から授かった尊い命

じゃからなあ。可愛い、可愛い。そ

れを毎日のようにしてやってな。そ

れからのことじゃよ、相手を愛する

のは。そうすればピカピカに光るう

ちのミカンのようになって虫がたく

さん寄つてくるぞー。ウワツハツハ

ツ……。

ケイコ ミカンちゃん！ 悪い虫がたくさん

寄つてきたりしたら困るじゃありませんか！

せんか！

文治 ミツバチじゃよ。アハハ。不誠実極

まりないミュージシャンは、こちら

の方からポイと投げ捨ててやれ！

ハイ！（と明るい）どうもありがとう

うございましたー！

ケイコ 「ミカンちゃんの人生相談」でした。

来週もまたご相談を待ってまーす！

文
治

わしも、待っ
とるぞー！



「わがままな孫」

ケイコ (電話を取る) ハイ、「ミカンちゃん

んの人生相談」です！

節子 毎回聞いています。まさか自分で電

話しようとは…。横山節子です。73

歳になります。

登場人物

ケイコ ご相談はどういったことで？

節子 私、精も根も、もう尽き果てちゃっ

て…。

●青柳文治 (88歳) 静岡県のミカン農
家の隠居 愛称ミカンちゃん

ケイコ ミカンちゃんがご相談に乗ります。

節子 この春から中学3年生になった孫の

博のことなんです。母親が早く亡く

なってしまって、私が母親代わりに

育てているんですけど、その博が最

近ひどくわがままになってしまって

…夕べなんか…。

アナウンサー

●横山節子 (73歳) 主婦

●横山博 (15歳) 節子の孫

(電話ベル音)

(柱時計の音)

博 ただいまー。おばあちゃん、ハラ減

ったー。

節子 お帰りー。

博 チャーハン。いつもの。さ、早く！

節子 …ゴメン、ゴメン。まだ作ってない。

博 ええー！ いつも作って待ってくれ

てるじゃないか、塾の日は必ず。

節子 それがついウトウトしちゃって。

博 チャーハンだけが楽しみで帰ってき

たんだ。(プリプリして) いい。頼

まない。もう寝る！(と、行きかけ

る)

節子 (慌てて) すぐに出来る。漫画でも

読んで待ってて。

博 寝るって言ってるんだ。(ふすま開

ける) あ、布団、敷いてない。

節子 (ハッとなり) すぐに敷いてあげる！

博 勉強。勉強勉強勉強！ 我慢してや

っているんだ。僕のため？ 違う。

おばあちゃんがやれって言うから。

もう行かない！ 塾なんか死んでも

行くもんか！

節子 そ、そんなこと言わないで。

博 大人になったら、お父さんみたいに

一日中会社へ行って働かなきゃなん

ないんだろう。大変だよ。だから今

のうちに遊んどかなきゃ。

節子

バカなこと言うんじゃないよ。今、一生懸命に勉強して、いい高校へ行って、国立の大学へ進んでくれるのがお前が小さな頃からのおばあちゃんの夢なんだから。

節子

へ寄って…。
(たまらなくなつて) チャーハン、すぐに作るから。お布団も…。

博

イヤだよ、おばあちゃんの夢のために塾へ通うのはもう！

節子

ひ、博！

節子

あんたのためなんだよ。おばあちゃんはね、あんたが可愛くて可愛くてたまらないから。

節子

出てけつたら出てけーっ！
(転ぶ) イ、イタッ。アイタタタ…。

博

どうして!? 自分で産んでもいないのに。

ケイコ

ひどいお孫さんね。泣きたくなるお気持ち、よく分かります。ね、ミカンちゃん。

節子

(ハツとなる) ひ、博！

文治

わしが博君ならば、とうの昔にグレておる。博君はエライ！ 節子さんは良いお孫さんを持って幸せ者じゃ

博

友だちのお母さんはみんな塾まで迎えに来ている。帰りにはファミレス

のう。

ケイコ (とがめるように) ミ、ミカンちゃん!

ん!

文治 (ズバリと) 肥やしの施し過ぎ!

節子 (不思議そうに) …肥やし…の?

文治 さよう。ミカンの木が求めている以上

上に肥やしを与えたと、根っこが

腐る。枝葉はしおれ、良い実を付ける

ことは絶対にない!

節子 …ハア…。

文治 考えてもみなされ。ミカンはおろか、

例えば米の一粒でも人間が自分の手

で作ることができるか?

節子 そりゃあできません。で、でも…。

文治 できん。米の一粒、ミカン、リンゴ、

梨、何一つ作れん。ましてや人間の

命、逆立ちしたって…。

作れません。

節子 じゃあ、誰が作ったんじゃ? わし

の命を。節子さんの命を…そして、

博君の命を。

節子 (詰まる) そ、それは…。

文治 神様じゃ。

節子 …神様…が?

文治 わしはな、ついこの間、ミカンの苗

木を植えた。30センチばかりの小さ

な木の、その若葉が天に向かいグン

グン伸びてゆこうとしている。

文治 さんさんと降り注ぐお天道さまに真

つ黒な大地、海から渡ってくる穏やかな潮風、それらが小さな苗木を自然と大きゅう育ててくれるんじやよ。

節子

…自然…と？

（大きくうなづく）神様の手で、自然とだ。ただ、わしは時折、若葉のそばであったかーい言葉をささやいてやるだけ。

節子

…温かい言葉。

隣の農園じゃ夫婦ゲンカばかりするもんじゃから、出来るミカンはまずい！

節子

ケンカばかりしているとミカンはおいしくない…。

文治

台風が来るのを心配しちゃあ、苗木に馬鹿デカイ添え木を力いっぱいくり付けたりするもんじゃから育つもんも育たん。

節子

力だけじゃダメ…。

そうじゃ。お前さんが今やつとるところは、博君の成長を妨げることばかりなんじゃ。

節子

（ハツとなる）あ、ああ…。

文治

隣の農園じゃ夫婦ゲンカばかりする

文治

（静かに）分かったかな？

文治

もんじゃから、出来るミカンはまず

節子

ハイ。よく分かりました。ミカンち

ゃん！ あ、ありがとう！ ありがとう

どうぞございましたー！

ケイコ

よ、良かったあ！



「新米校長の憂うつ」

登場人物

●青柳文治 (88歳) 静岡県のミカン農

家の隠居 愛称ミカンちゃん

●ケイコ (33歳) とあるラジオ局の

アナウンサー

●校長先生 (53歳)

ケイコ (コーヒー注ぐ) ミカンちゃん、コ

ーヒー。今日は少し濃い目に煎れて

みました。

文 治 ヤ、いつもどうもありがとう。

ケイコ ハイ、どうぞ。

文 治 (コーヒー飲む) あー、うまい!

ケイコ 良かったあ。ミカンちゃん。そろそ

ろスタンバイしてください。

文 治 もう1杯：と言いたいところじゃ

が、相談が終わってからにしようか。

ケイコ ハイ。ミカンちゃんは静岡県のミカ

ン農家のご隠居さんだから、緑茶の

方がイメージに合っていると思うん

ですけど。

文 治 イメージ通りに生きるのは肩が張る

ぞ。例えば、学校の先生は真面目で

なければならんのかな。

(電話ベル音)

ケイコ (受話器を取り) ハイ。「ミカンち

やんの人生相談」です。

男性 : 毎週、欠かさずに聴いております。

ケイコ それはどうも。今日のご相談は?

男性 私のような立場の者が相談を致しま

すのはいかなものかと思つた次第

なのですが…。

ケイコ 私のようなもの?

校長 この春より、私立の高等学校の校長

をやっております。

文治 おお、まだ新米の校長先生なんじゃ

のう。

校長 はい。ですから、どうしても、しく

ケイコ それで、校長先生、ご相談の内容を。

校長 ハイ。実は私の学校の生徒で、度々

問題を引き起こす者が。昨日も、授

業中に…。

(窓ガラス、割れる)

校長 教師の注意にカツとなったその生徒

・A君が、突然暴れ出し、教室の窓

ガラスが割れてしまつて…。幸いケ

ガをした者は一人もおりませんでし

たが、授業は中断、恐怖のあまりに

泣き出してしまふ女子の生徒もい

て。

文 治

そりゃ大変じゃったのう…。

校 長

はい。これまでも何度かこのよう

なことが。それで担任の教師が、「自

分の手にはもう負えない。校長室に

呼び出して強く意見をしてやってほ

しい」と頼んできたという訳であり

まして…。

ケイコ

お気が重いことですねえ。よく分か

ります。

校 長

お察しの通りでございます。学校の

最高責任者と致しましての私として

は、何が何でも明日その生徒に会っ

て、善き方向へ導いてやらねばなり

ません。それが私の使命なんです。

それなのにこの気の重さといったら

…。自分で自分が情けなくなつてし

まいます。どうしたらよろしいのか

…（と、今にも泣き出さんばかり）。

ご事情はよく分かりました。ミカン

ちゃんに伺つてみましょう。

うむ。さつきから話を聞いておれば、

校長先生はその生徒とどのように接

すれば良いのか、そのことばかりに

気を取られておるようじゃが…。

それが一番の問題なんです！

本当に？

…え？

その前に、まずはじっくりと考えて

みなきゃならんことがあるじゃろ

う。あなたは、その A 君が、明日、

校長室へ必ずやって来ると決めて掛
かっておるようじゃが…。

校長 えっ？

文治 もしもそのA君が、明日、校長室に
やって来なかつたとしたら…。来て
はくれなかつたとしたら…。

校長 (ハツとなつて) …来てくれなかつ
たとしたら…。

文治 よう考えてみなさいと言うたのはこ
のことじゃ。いくらあなたがA君の
ことを思い、彼を立ち直らせてやる
うと躍起になつたとしても、そのA
君が、明日、校長室にやってこな
かつたらあなたの役目は果たせんのじ
や。A君が来てくれたら、そのおか

げで校長としての役目が果たせるん
じゃから、例えどのような来方^{きかた}をし

ようともだ、A君に礼を言つてから
話をさせてもらうのが筋じゃと、わ
しならばそう思う。

校長 (げんそうに) 生徒に、私が？

礼を言う？

文治 礼を言えんような人間に、どのよう

な生徒も、とやかく言われたくはな
いからなあ…。

校長 ハア…なるほど…。よく考えてみま

す。では、失礼を致します。(電話
切れる)

ケイコ (ナレーション) その数日後に、あ

校長

の校長先生から、番組宛てに手紙が届きました。

ミカンちゃんのお言葉、深く心に染み入りました。礼を言えないような人間に、とやかく言われたくはない。A君が来てくれるように私は必死で祈りました。

：かなり遅れてやって来て、その態度も、初めは目に余るものでしたが、私は、「よく来てくれた。ありがとう」と、A君に頭を下げてから話を聞きました。

A君は、最初はビックリしたようでしたが、だんだん反抗的な態度がな

くなり、素直な顔付きになっていきました。

A君は家庭内のことで、大変な問題を抱えていることが分かり、今後は、担任の教師と手を携えて力になってやらねばと、強く思った次第であります。

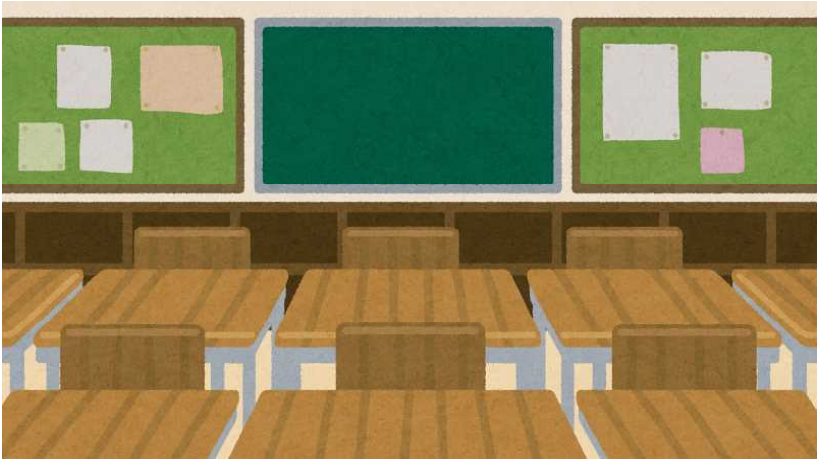
あの電話で、ミカンちゃんのおかげで、私は教育者としての道を踏み外さずに済みました。ありがとうございました！

(コーヒー入れる)

文治

(コーヒー飲む) ああ、うまい！

校長先生、仕事熱心も良いが、たまにはコーヒーを飲んで。肩の力を抜いてな。



「夫の浮気」

やんの人生相談」です。

…ミカンちゃん…ですか？

女性

ミカン農家の隠居で88歳。どんな悩

みもわしの胸に捨ててしまいなさい。

登場人物

女性

す、捨てられません！ 3年余りも

●青柳文治

(88歳)

静岡県のミカン農

家の隠居 愛称ミカンちゃん

文治

…捨てられずにいる…。

●ケイコ

(33歳)

とあるラジオ局の

女性

えっ、3年も？

アナウンサー
●真由美

(33歳)

主婦

ケイコ

娘が幼稚園に入った春でした。その

子がもう小学校の1年生…。く、苦し

(電話ベル音)

ケイコ

(電話取る) もしもし、「ミカンち

女性

しくつて…。

(優しく) ミカンちゃんに何なりと

ご相談ください。まずお名前とお年

を。

…真由美です。33歳。浮気をしてる

んです！ 夫が！（泣いて）うそ一つつけない真面目な人だとばかり思っていたのに。ううう…。

真由美

感情的にならずに、真由美さん。落ち着いて。

真由美

3年前の冬、夫が肺炎にかかり3カ月ばかり入院したんです。私は毎日病院へ看病に。

ケイコ

真由美

ケイコ

真由美

ところが、そのさなかに私の母親が転んで骨折し、私はそちらのほうの世話で手いっぱいになり、夫の看病がなおざりになってしまったんです。その間に、事もあろうに夫が若い看護師に手を出し…。

真由美

ケイコ

ケイコ

ええーッ！

幸い、母の方は大事に至らず、夫も退院し元の生活が戻ってきました。でも夫の様子がどうもおかしい。あの時、私は夫の後をつけ、2人を取り押さえ…。

勇氣あるー！

必死だったんです。

それで、ご主人は何て？

「悪かった！ 遊び心だったんだ。

ゆ、許してくれー！」

相手の女性は？

「何でも買ってくれて、おいしいものをたくさん食べさせてくれるから、ただ会っていただけ」ですって。ビックリするほどにアツケラカんと

して…。

ケイコ　じゃあ、前と同じ暮らしが戻ってき

たって訳なんですね。

文　治　もう何の問題もないではないか。

真由美　な、何てことを！　あたしはあれ以

来ただの一度たりとも夫の裏切りを
忘れたことがあります。嫉妬、屈
辱、怒り。呪いの感情が胸にくすぶ
り続けて…。重い石を胸に抱え、息
が切れそう…。

文　治　気の毒なことじゃのう…。

真由美　そう思ってくださいるんですね。ミカ

ンちゃん…。

文　治　あなたのご主人や、まだ幼ない娘さ

んが気の毒じゃと、わしはそう言う

真由美

ておる。

（キョトンとして）ええっ？

文　治

今、うちのミカンは花盛り。その山
の中へ分け入ってゆく時のあの例え
ようもない幸福感！　人間だけでは
ないぞ。甘酸っぱい香りに誘われて、
ミツバチがたくさん寄ってくる。花
の中に顔をググつと突っ込み、蜜を
吸う。その時に体に付いた花粉をハ
チが運ぶ。そして、あのおいしい、
みずみずしいミカンの実が、たあん
となるという寸法なんじゃ。

真由美

（イライラして）そのことと夫の浮
気と、どんな関係があるっていうん

文 治

でしようか！

人はな、誰もがな、花盛りのミカンの山へ分け入ってゆく時のような、あの幸せいっぱいの気持ちを、いつも：いや、いつもとは言わんが、なるべく持つように努力してゆかなきゃならん！ と、わしはそう思うのじゃよ。

真由美

文 治

だから、身を軽うしてな、ミツバチさんになったような思いで……。ま、そんな気持ちで、暮らしの山へ分け入るんじゃ。それには……
(すがりつくように) ……そ、それには？

許す。ご主人を許す。これしかない!!

真由美

：花盛りの、ミカンの山へ、分け入ってゆく時のような……？

真由美

文 治

今の真由美さんにはこれが一番大切なことではないかとわしは思う。考えてもみなされ。重い石を胸に抱いて登れるか？ ミカンの花咲き乱れる段々畑を。

(びっくりして) ……許す……夫を……ご主人の浮気は確かに悪い。だが、許すことによつてしか傷は癒やされん。ミカンはやな、可哀想なことに、いったん傷が付いてしまったら、もう売り物にはならん。農協でふるいに掛けられて、缶詰の材料となる。

真由美

：缶詰の材料に？

文 治

だがなあ…人間の心に付いた傷は、「許す」ことによつて跡形もなく消えてなくなるのじゃ。

真由美

山へ分け入つてゆくんじやよ！

（まだ泣きながら）ミ、ミカンちゃん！ 分かりました！ どうもありがとうございます！

真由美

（ハツとなつて）夫を許す！

文 治

（温かく）真由美さんも、実は許してあげたいと思うているんじやあないのかなあ…。ご主人を、愛しているんじやから…。

ケイコ

：「許す」…か。人間にしかできないことなのね。…あたしも、ミツバチさんになつたような思いでミカンの花が咲き乱れる山へ分け入ろう！ 「ミカンちゃんの人生相談」でした！ ではまた来週も、お電話をお待ちしております。

真由美

ウツ、ウツ、ウウウウ…（と、最後はワツと泣き崩れる）。

文 治

そろそろご主人や娘さんが起きてくる時分じやろう。「おはよう！」と優しく声を掛けてあげてな。ミカンの山じや。ミカンの花、咲き乱れる



「僕のお父さんとお母さん」

登場人物

●青柳文治 (88歳) 静岡県のミカン農

家の隠居 愛称ミカンちゃん

●ケイコ (33歳) とあるラジオ局の

アナウンサー

●大山啓介 (13歳) 中学1年生

(電話ベル音)

ケイコ (受話器を取り) はい、「ミカンち

ゃんの人生相談」です。

男の子 (泣くのを必死にこらえている様子)

ウ、ウ、ウウウ…。

ケイコ ど、どうなさったんですか？ どの

ようなことでもご相談に乗ります。

男の子 わっ。わ、わわあーっ！ (せきを切

ったように激しく泣く)

ケイコ (ナレーション) この日、泣きなが

ら電話を掛けてきたのは中学校1年生の男の子で、その名前を大山啓介君といいます。夕べは心配で、一晩中眠ることができなかつたと…。

啓介 (必死で涙をのみ込んでから) 僕の

おじいちゃんが、去年病気で死んじ

やっただんです。僕にはたった一人のおじいちゃんだったのに…。

文治

ふむ、ふむ。いいおじいちゃんだったんだろなあ。

啓介

おじいちゃんが生きている間は僕のお母さん、「お父さんと離婚したい！」なんて絶対に言い出さなかった…。

文治

…離婚？ 離婚じゃと？

啓介

誰も反対しないんだ。

文治

誰も？

啓介

「別れましょう」って言うお母さんに、お父さんは黙ってうなずいたんだ。おばあちゃんも黙ったままだった…。僕は、隣の部屋で布団をかぶ

って聞いていた…。この間の夜のことなんだ。

文治

そりや大変だったなあ…。

啓介

僕のお父さん、いつもお母さんをガミガミ叱ってばかりいる。特にお酒を飲んだ時なんか…。お母さんは小さくなつて、ただハイハイって…。

このごろでは暴力も振るうようになって…。僕は、そんなお母さんが可

哀相で。それで、この間なんてお父さんを助けようとしたら、僕がお父さんから殴られちゃった…。

文治

そ、そんなにヒドいお父さんなのか

…。
でも、僕にはたった一人のお父さん

だから…。

文治

(うなずいて) 全くその通りじゃ。この世にたった一人のお父さん、お母さんなんじゃからなあ…。

啓介

お父さんは、僕がまだ小さな時にはよくキャッチボールをして遊んでくれた。肩車もしてくれた。釣りにもよく連れて行ってくれた！ 本当は、とつてもいいお父さんなんだ！

文治

…。

啓介

これからはもうそんなお父さんと会えなくなってしまう。イ、イヤだ！

イヤだ！ イヤだー！

文治

(首を振って) そんなことは決してない！

文治

わしはな、長い間ミカンを作ってきたのじゃが、このミカンは、あのなだらかな丘の木から。このミカンは海に一番近いあの急な坂に生えている木からと、みんな分かるんじゃよ。親と子の間柄というものは、切ろうとしてそう簡単に切れるものではない。

ご両親が仲むつまじゅう暮らしてくれるのが何よりじゃが、長い間イザコザ続きじゃったんだから、夫婦別れをするのもまた一つの道じゃろうとわしは思う。

だがな、その夫婦の問題に、啓介君

が首を突っこんで苦しむことはない！

啓 介 えっ。で、でも…。

文 治 ここで問題になるのは啓介、君の心の持ちようなんじゃ。

啓 介 …僕の心？

文 治 ミカンも人もみんな同じじゃ！ 嵐

に遭って、苦しむことが度々あるんじゃないからなあ。じゃが、ミカンにも色々あつてな、雨風に耐え切れずに親木から引きちぎられ、段々畑をコロコロ転がり、海の底へ沈んでしまふ実もあれば、また激しい嵐に遭つても雨風をこらえ、秋にはつやつやとした立派なミカンとなつて出荷さ

れるものもあるのじゃ。水も肥料も同じように与えてあるのになあ。

啓 介 だが、人間は、心の持ちよう一つでどんな嵐からも身を守ることができ

啓 介 …！
(目を輝かす)えっ！ どうすれば！

どうすればいいの!?

文 治 心の持ちよう一つじゃと言うたじや

ろう。

啓介、君の中にはいつもお父さんがいる。お母さんもいる。そしておばあさんも、亡くなったおじいさんもいつも一緒にいるのじゃ。そして、啓介のことを守ってくれている。別々に暮らしていても少しも変わりは

ないのだ！ ただ…。

文 治

その通り。その通りなんじゃ！ お

啓 介

…ただ？

父さんもお母さんも、おじいちゃん

文 治

別れ別れになって自分は不幸だと啓

もおばあちゃんも、みんなが啓介の

介が悲しみのふちに沈んでしまつて
は、守りたくても守りにくいんじゃない
よ。

ことを可愛がつてくれるんじゃない！
今まで通りに。そして、これからも
先もずっと！ ずっと！ だから元
気を出して、明るく生きる！

啓 介

…僕を…守り…にくい？

分かった。ありがとう！ 僕は今、

文 治

そうじゃ。だから肝心なことは…。

啓 介

…肝心なことは？

啓 介

嵐の中。でも大丈夫！ 明るい心を

文 治

離れていても、みんなが啓介のこと

持つんだ。よし！ 元氣出た！ 本

を大事に思っている。心はつながつ
ている。このことを、決して決して

当にありがとう！ ミカンちゃん！

忘れてはならんのじゃ。

文 治

おお！

啓 介

大事に思っている。心はつながつて

ケイコ

ああ、良かったー！（つぶやく）：

いる。そうなんだね！

「明るい心」か。私も反省！ 反省！

「誰でもできること」

登場人物

●青柳文治 (88歳) 静岡県のミカン農

家の隠居 愛称ミカンちゃん

●ケイコ (33歳) とあるラジオ局の

アナウンサー

●清水恭平 (65歳) 無職

●恭平の母親 (90歳)

ケイコ 秋。ミカンの季節が、またやってき

ますねえ、ミカンちゃん。

文治 (ニヤニヤしつつ) 初なりのミカン。

君に進呈しようとして持ってきたんじゃないよ。ホレ。(ミカンを差し出す)

ケイコ えっ、もう!? (と驚いて)

文治

早生^{わかせ}じゃよ。この後に中手^{なかて}、晩生^{おくて}へと続く。わしは今年で88歳。ようやく

く人生の妙味が分かりかけてきたから晩生中の晩生というワケじゃなあ

(笑う)。

(電話ベル音)

ケイコ (受話器を取り) もしもし、「ミカ

ンちゃんの人生相談」です!

男性

うーむ。近頃じゃあ、今が昼なのか夜なのかよく分からん。うちのお袋、

90歳。気持ち良さそうに眠っている
っていうのに…。

ケイコ

…浮き世離れ？

ケイコ

(弱って) …あの、どちらへお掛け
で？ こちらは、「ミカンちゃんの

恭平

だって、おかしいとは思いません
か？ 私に、しょっちゅうこんなこ
とを言うんだから。

人生相談」…。

男性

(遮り) お袋は眠っている。私は眠
れん。どうしたら良いのかと。

(秋祭り)

ケイコ

もしもし。この番組では、ご相談の
前にお名前とご年齢を伺うことに
…。

恭平

あー、やっと終わったあ、秋祭り。
神輿みこしの担ぎ手を集めたり、山車を引
つ張る子どもたちにお菓子の景品を
渡したり、散らかったゴミを片付け
たり。ボランティアも楽しじゃないな。

恭平

清水恭平。65歳。

文治

まだまだガキ。

ケイコ

では、ご相談を。

母親

去年と同じことができるっていうの
は、どれほど幸せなことか…。

恭平

お袋が、近頃何だか浮き世離れした
ことばかり言うのでね。

恭平

母さんはね、日なたぼっこをしながら

ら椅子に腰を掛けて、ただ見ているだけだからいいけれども、こっちはもうクタクタだ。

母親 お隣の山田さんも、少しは寂しさが紛れただろうねえ。

恭平 山田さんのおじいちゃんは、何にでも反対をする。町会費を10円値上げ

しようかって言ったら、烈火のごとく怒っちゃってさ。どれだけみんながイヤな思いをしているか。俺、顔を見るだけでもウンザリだよ。ハア
1。

母親 山田さんはね、去年奥さんを病気で亡くされ、ご自身もお体が弱くって。

だから、寂しいんだろうねえ…可哀

想だねえ。幸せになるように、あたしたちで祈ってあげなけりゃ。

恭平 (不思議そうに)…祈る？俺が？

あインゴウジジイの幸せを？

母親 そう。祈る。それが、人間ってもん

じゃないのかねえ…。

文治 (ハツとなる)…みんなの幸せを祈

る…人間だから…。(感動して)聞

かせてください！もっと、もっと

あなたのお母さんの話を。

(食後のお茶を注ぐ音)

母親 ごちそうさま。今日もおいしかった

よ。(お茶を飲む) 相手のことを思
いやれるのは、人間だけなんだよ。

文 治

にドンドン大きくなって行って…。

(ため息) またいつものその話か。

…心が、風船みたいに大きくなって
行って…。

恭 平
母 親

可哀想だなあ、そう思った途端にね、
あたしの胸ん中に神様が生まれてく
ださるんだよ。

母 親

膨らんで。あたしの心の中に「世界」
が、スッポリと包まれてしまう…。

恭 平

俺、約束があるから出掛けるよ(去
る)。

母 親

…そうして、そこには神様…。

母 親

(構わずに) あたしはテレビで戦乱
のちまたをさ迷ってる人たちを見た
り、飢えて苦しんでいるアフリカの
子どもたちのことを知ったりする
と、世界中の人たちの「幸せ」を、
祈らずにはいられなくなってしまう
のよ。そうすると、心が風船みたい

母 親

いらっしやるのよ。いつも、いつも
一緒なの。神様と…！ だから、怖
いものは何一つない！

恭 平

(電話で) おかしいとは思いません
か、うちのお袋。

文 治

バカモノ！ おかしいと思うあなた
の考え方の方がおかしいのだ！

恭平 ええーッ！

文治 (つくづくと) 素晴らしい！ 素晴

らしいお母さんだ！

ケイコ ……ミカンちゃん…。

文治 ……世界中の人たちの、「幸せ」を祈

る…神様と共に…。どんな悩みも、消えてなくなってしまうなあ…。

ケイコ ミカンちゃんのお言葉、あたしには

まだよく…。

文治 自分よりもっともっと苦しんでい

る人たちのために祈る！…その温かさが人から人へと伝わってゆく…。

神様が喜んでくださってなあ…寄り添ってくださるんじゃないよ。悩みなど

何一つない世界へと、いざなってくださるんじゃない！

はあ…

(ズバリと) 稽古！

ハ、ハイ！

文治 難しいからこそ、毎日毎日稽古をす

るんじゃない！ 他人を助け、他人のために祈る稽古をな…。

ケイコ (しみじみと) ……ケイコ。あたしの

名はケイコ。ガンバってケイコをします！ これからは、他人の幸せを祈り、人を助ける稽古を…！

「ミカンちゃんの人生相談」を、これで終わります。

金光教本部 ラジオ放送係

住所 〒719-0111
岡山県浅口市金光町大谷320

電話 0865-42-6453

FAX 0865-42-2114

メール w-master@konkokyo.or.jp

KONKOKYO

ニッポン放送 日曜日 あさ4時30分

東海ラジオ放送 金曜日 あさ5時25分

朝日放送 日曜日 あさ5時30分

RKB毎日放送 日曜日 あさ6時50分

こちらで軽くおはなし

検索

